

『事例で考える民事訴訟法』

(Y.U・法科大学院生・20代)

私自身、民事訴訟法が苦手なので、本書のような民事訴訟法の事例教材は大いに役立つと思い、本書を使わせていただきました。民訴法の中では、特に債権法改正によって、債権者代位権の法定訴訟担当について変更があるのではないかという議論があるものの、教科書等ではフォローされていないものもあり、中々理解が難しかったです。しかし、本書の解説を通して、改正によってできた訴訟告知の必要と債務者の処分権限の存続という2つの旧法との大きな差異について、丁寧に説明されていて、自分の理解を深めることができ、大いに助かりました。

また、本書では、解説のみならず、答案にする際の思考チェックとしての「答案作成時の要点」や書き下ろしの「答案作成の作法」があり、インプットのみならずアウトプットの側面からも学習ができ、本書がただの事例の解説にとどまらず、実戦に向けても手厚くサポートしており、苦手な民訴法の理解に役立つものでした。